

# 【令和3年度】四国大学職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価表

【実践的小学校英語指導者育成プログラム】

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	自己点検・評価に基づくBP推進会議の評価
1. 教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	当プログラムは新学習指導要領に対応し、小学校で英語を指導するために必要な知識やスキルを習得するための実践的で充実したカリキュラムである。また選択科目も「英語文学」や「異文化理解」等中学校教諭二種免許の取得に必要な科目区分が配置されており、受講生のニーズに合わせた選択が可能になっている。	教育課程は、教育目的の実現のために適切な授業科目が設定され、受講生のニーズに対しても十分な配慮がされるなど、適正に運営されていると判断できる。
2. 教育成果(各科目の成績評価、人材育成効果(身に付ける能力を修得したか))	受講生は、平日の昼間は勤務校での本務を務めつつ、夜間及び休日に受講するというハードなスケジュールの中で、LMS(マナバコース)の活用により、フィードバックを伴う双方向的な形での運用、また授業で使用した資料や教材を繰り返し見ることができた。予習・復習も怠らず大変熱心に取り組んだ結果、英語指導者として必要な知識や技能を身に付けている。	対象とする職業に必要な能力や知識の向上に資するプログラムとなっており、十分な教育成果があると判断できる。
3. 学生支援(学修支援体制・学修支援状況)	担当教員は、受講生の負担や不利益にならないよう、授業時間や日時において事務局と連携し適宜調整を行っている。今年度からはすべての授業をオンラインにて実施し、課題等はマナバコースを活用することで、受講生の移動の負担を軽減できた。初回授業日には授業に対するオリエンテーションやZoom及びマナバコースの説明など、事前の個別指導も行った。マナバコースに掲示できない教材は事務局より発送した。	学修支援体制については、事務局との連携のもと、遠隔授業及びポータル等によりコロナ禍における対応が図られ、社会人学生の支援が適切に行われていると判断できる。引き続き、充実に努められたい。
4. 組織運営(教育組織の適切性・妥当性など)	教育組織は、実務経験や教職経験の豊富な教員をそろえ、適切に機能している。プログラムの運営などについては、毎月開催される学科会議で、共有されるべき情報は常に教員間で把握しており、適切性や妥当性についての検証組織は整っている。課題となっている教員の負担などについては今後、鳴門教育大学との共同実施によるプログラムでの連携を通して軽減できる予定である。	必要な教員が配置されるなど、組織運営は適正に運営されていると判断できる。勤務体制については、対面と遠隔を組み合わせた授業を行うなど、教員の負担軽減が図られるよう組織的な観点から今後工夫・改善に努められたい。
5. 施設設備(施設及び設備の整備状況)	すべての科目をオンラインで行った。補助金により新しいカメラ・マイクなどが整備でき、よりスムーズに授業が実施できた。受講生のネット環境が時々問題となったので今後の検討課題である。	施設設備の整備状況については、概ね良好だと判断できる。今後、Wi-Fiの貸し出しを行う等、受講生のネット環境にも配慮した効率的なプログラム運営のための工夫に努めていただきたい。
6. 広報活動(受講生の募集・広報活動)	今年度は一回目の募集は効果的な結果が得られなかったため再募集を行った。募集パンフレットは、県内の小学校及び教育委員会に送付したほか、各校や教育委員会関係の研修会でも直接配布した。大学のHPでの発信やオンライン(Zoom)対応の効果もあり、受講生の増加に繋がった。今後、鳴門教育大学や徳島県教育委員会との新たな連携を通して新プログラムによるさらなる増加が期待される。	今後、定員充足のため、受講生の募集・広報活動をさらに充実させるよう努めていただきたい。
7. 内部質保証(内部質保証システムは有効に機能しているか)	少人数での実施であるため、その都度受講生の意見を取り入れ、受講生が主体的に受講できるよう授業を展開している。また、授業最終日にはアンケートを実施し、学科教員で話し合いを行い、授業の内容や方法を確認している。現在、適正な内部保障体制は整っていると思われる。	学生の意見を取り入れる仕組みを構築し、適正な内部質保証体制が構築され、機能していると判断できる。